

「長崎のしまに学ぶ — つながる とき・ひと・もの —」



平成26年度
地(知)の拠点整備事業
【事業経過報告書】

はじめに

長崎県立大学 学長

太田 博道

本学が推進する「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業) 長崎のしまに学ぶ ― つながる とき・ひと・もの ―」は、平成26年度に2年目を迎えました。

このプロジェクトで大切なことは、(1) 地域貢献の観点から見て有意義であること、(2) 学生の教育という観点からも有意義であること、そして(3) 全学的な取り組みであることです。このようなことから、私達は学生諸君の若い感性、また「よそ者」としての視点から何か新しいアイデアや提案が出てくることを期待しています。学生がPBL(Project Based Learning)により課題を発見し、その課題解決のため何らかの提案ができるように、しまでのフィールドワークを進めていきます。学生諸君にとって有効な能動的学びとなり、同時に地域の課題解決に何らかの貢献ができることを期待しています。我々は、平成27年度から改めてこのプロジェクトを「しまなび」と名付けました。

「学生のPBLによる課題発見」、「しまでのフィールドワーク」といっても、学生にとってもそしてかなりの数の先生方にとっても初めてのことが多いので、全学生に必修として課す前にどうしても試行が必要です。始める前は何人の学生が参加してくれるか些か心配でしたが、H27年度から必修となる経済学部、国際情報学部学生の半数近くの学生が参加して、PBL、フィールドワークの試行(本格実施のときよりどちらも日数を短くした)が行われたことは大変喜ばしいことでした。この試行を通して、学びのコンテンツは相当に充実したし、使い勝手が良くなったのではないかと思います。また、多くの課題が見えてきて、それを基に詳細なマニュアルも作成することができました。しまの方々の前での発表会も数回を数え、厳しいご批判と温かいエールの両方を頂き、学生・教員共に今後繋がる何かを得ることができたことは確かです。

しまでの活動をできるだけ実りあるものにするためには、周到な準備や事前学習が欠かせないのは当然のことです。そのためにはどうしても現地にコーディネーターとしての役割を果たして頂く方が必要です。幸いにして、平成27年度から各地域でまたとない方にご協力頂けることが決まり、大変心強く感じています。

地域に関する講義は、全てがそれに関するもの、地域に関する内容も含めたものを合わせて、順当に整備されていることは喜ばしいことです。また、地域活性化に関する研究も様々な専門分野からのアプローチがあり、本学の特色が活かされていると言えます。地域公開講座、女性のキャリア教育支援講座等にも参加者が増加傾向にあり、今後さらに充実していくことを願っています。

最後に本学COC事業の平成25年度と平成26年度の活動に対する外部評価委員会から頂いた貴重なご意見を真摯に受けとめ、今後のプロジェクトの発展に教職員一丸となって取り組む覚悟です。

目次

I	事業概要	1
II	活動履歴	3
III	活動報告	
	1 COCプロジェクト推進本部	6
	2 COCプロジェクト連絡会議	9
	3 COCプロジェクト評価委員会	10
	4 各種取組	
	(1) 地域志向の教育	14
	(2) 地域志向の研究	27
	(3) 地域との連携	32
	(4) 教育の効果	41
	(5) eラーニングシステム等の構築	42
IV	その他	50

I 事業概要

●長崎のしまに学ぶ — つながる とき・ひと・もの — 【概要図】

大学では

- 学長のトップマネジメントを強化し、大学の重要課題に的確かつ機動的に対応するために、重要課題毎のプロジェクトチームを編成し、大学改革を推進します。また、研究については学長の主導のもと、「しま」や長崎の地域課題を重点化します。
- 全学的にグローバルな視野をもち、かつ地域課題に主体的に取り組み解決できる人材育成を主眼とした地域志向のカリキュラム改革を行い、学部学科再編に取り組みます。授業方法にアクティブラーニングを取り入れ、主体的な学習を促すとともに、モバイルラーニングを導入し学習を支援します。
- フィールドワークの拠点として地域にサテライトキャンパスを設置し、出前講義、eラーニングにより生涯教育・地域協働の人材育成の拠点等としても活用します。



地域では

- 教職員・学生が、全員地域に出向くことにより、交流人口の拡大や活性化に貢献します。
- 大学が地域を「つなげる」役割を果たすとともに、とき(伝統・文化)を理解し、ひと(住民・学生)もの(特産品等)の動きを活性化させ、地域課題の解決を図ります。
- 広域的な視点で諸課題の解決を図るとともに、成功した取組事例は県内の他地域に普及します。

●COCプロジェクト推進体制

COCプロジェクト推進本部 本部長：学長
副本部長：学長特別補佐 (COC担当)

(構成員)
 ・学長
 ・副学長
 ・学部長
 ・学生部長
 ・シーボルト校学生部長
 ・地域連携センター長
 ・教育開発センター長
 ・教務委員会委員長
 ・大学事務局長
 ・シーボルト校事務局長
 ・その他必要に応じ学長が指名する者

(業務)
 ①事業の実施に関する事
 ②事業の予算及び決算に関する事
 ③地域志向の教育及び研究に関する事
 ④地域との連携に関する事
 ⑤文部科学省への報告等に関する事
 ⑥COCプロジェクト評価委員会への報告に関する事
 ⑦その他事業に関する事



COCプロジェクト連絡会議

(構成員)
 ・推進本部副本部長
 ・連携協定等を締結している自治体が推薦する者 各1名
 ・企画広報課長
 ・シーボルト校総務企画課長
 ・その他議長が必要と認められた者

(業務)
 ①事業推進にかかる各自治体と大学間の連絡及び調整に関する事
 ②COCプロジェクト推進本部への要望や意見の取りまとめに関する事
 ③その他、本学と地域との連携を円滑に推進するために必要なこと

COCプロジェクト評価委員会

(構成員)
 ・外部有識者 2名
 ・大学運営に関心を有する者であって、公募により選ばれた者 1名
 ・長崎県知事が推薦する者 1名
 ・連携協定等を締結している市町長が推薦する者 1名
 ・学長の指名する教職員 若干名
 ・その他学長が必要と認められた者

(業務)
 ①事業内容の評価及び提言に関する事

COCプロジェクト推進本部

地域志向の教育に関する部会	<ul style="list-style-type: none"> ・「しまなび」プログラムに関する事 ・地域を志向したカリキュラム改革に関する事 ・eラーニングに関する事(システム構築を除く)
地域志向の研究に関する部会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する研究の推進に関する事 ・地域志向教育研究経費に関する事
地域との連携に関する部会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における生涯教育(地域公開講座等) ・受託研究、共同研究等に関する事 ・地域振興に関する事 ・シンポジウム、報告会の開催に関する事
教育の効果に関する部会	<ul style="list-style-type: none"> ・「しまなび」プログラムの教育効果の検証に関する事 ・eラーニングシステムを利用した授業の教育効果の検証に関する事
eラーニングシステム等の構築に関する部会	<ul style="list-style-type: none"> ・eラーニングシステムの構築に関する事 ・システムの維持・管理・運用・システムのカスタマイズ等に関する事 ・コンテンツの開発等に関する事

II 活動履歴

【活動履歴】

平成26年4月

- ・21日 第1回 COCプロジェクト推進本部
- ・25日 COCプロジェクト評価委員会
- ・28日 地域志向の教育に関する部会（全学教務委員会）

5月

- ・1日 eラーニング構築部会
- ・8日 地域公開講座（新上五島町）
「アンチエイジングのための食事学」
- ・14日 地域志向教育研究費の募集開始

6月

- ・3日 第2回 COCプロジェクト推進本部
- ・10日 経済学部FD研修会
「産学協同PBL講座の実践報告」
- ・12日 地域志向の教育に関する部会（全学教務委員会）
- ・16日・18日 地域志向教育研究費 審査会
- ・20日 国際情報学部FD研修会
「地域活性化とPBL授業について」
- ・20日 しま体験教育プログラム事前学習（第1回）
- ・23日 地域志向教育研究費 審査会
- ・24日 新上五島町フェア開催
- ・25日 地域志向教育研究費 審査会
- ・26日 しまの健康実習報告会
- ・27日 しま体験教育プログラム事前学習（第2回）
- ・30日 地域志向教育研究費 審査会

7月

- ・1日・2日 地域志向教育研究費 審査会
- ・3日 地域との連携に関する部会（地域連携センター）
- ・4日 しま体験教育プログラム事前学習（第3回）
- ・7日 地域志向教育研究費 審査結果通知
- ・8日 しま体験教育プログラム事前学習（第4回）
- ・30日 eラーニング構築部会

8月

- ・5日 第3回 COCプロジェクト推進本部
- ・6日 第1回 COCプロジェクト連絡会議
- ・7～8日 全学FD研修会
「しま体験教育プログラム実施に向けてのPBL授業の研修」

9月

- ・1日～ しま体験教育プログラムフィールドワーク 各班毎に随時実施
- ・11～12日 SD研修会
「新しい大学のスタートに向けて」

10月

- ・28日 第4回 COCプロジェクト推進本部
- ・28日 地域公開講座（小値賀町）
「家庭における子どもの事故と感染の予防」

11月

- ・8～9日 学園祭（佐世保校）
- ・15～16日 学園祭（シーボルト校）
- ・～24日 しま体験教育プログラムフィールドワーク 全班終了
- ・25日 地域志向の教育に関する部会（全学教務委員会）
- ・26日 地域公開講座（壱岐市）
「油、コレステロールと上手に付き合う」

12月

- ・6日 しま体験教育プログラム 対馬市報告会

平成27年1月

- ・9日 地域志向の教育に関する部会（全学教務委員会）
- ・10日 地域公開講座（長与町）
「血液ドロドロと血液サラサラのウソとホント」
- ・24日 しま体験教育プログラム 五島市報告会
- ・25日 しま体験教育プログラム 壱岐市報告会
- ・27日 地域との連携に関する部会（地域連携センター）

2月

- 3日 第5回 COCプロジェクト推進本部
- 18日 第2回 COCプロジェクト連絡会議

3月

- 16日 女性のキャリア教育支援講座（長与町）
「グローバル化する社会の中のワーク・ライフ・バランスを考える」
- 17日 eラーニング構築部会
- 18日 第6回 COCプロジェクト推進本部
- 23日 eラーニング構築部会

Ⅲ 活動報告

1 COCプロジェクト推進本部

- 第1回 平成26年4月21日(月) 13:00～
 1. 平成26年度の取り組みについて
 2. しま体験教育プログラム試行基準について
 3. 各部会からの報告
 - ①教育に関する部会
 - ②地域連携部会
 - ③eラーニング構築部会
 4. その他
 - COCプロジェクト評価委員会の開催について
 - COCプロジェクト連絡会議について

- 第2回 平成26年6月3日(火) 16:20～
 1. 各部会からの報告
 - ①教育に関する部会
 - ②地域志向研究部会
 - ③教育効果部会
 - ④eラーニング構築部会
 2. その他
 - 平成25年度実績報告書について
 - 文部科学省地(知)の拠点整備事業におけるアンケートについて
 - 的山大島視察について
 - 新たに連携する自治体について



・第3回 平成26年8月5日(火) 13:00～

1. 各部会からの報告

①地域志向教育部会

- ・部会開催報告
- ・しま体験教育プログラム試行進捗状況

②地域志向研究部会

- ・地域志向研究費応募状況

③教育の効果に関する部会

- ・PBL 授業に関する確認事項
- ・FD 研修会報告

④eラーニング構築部会

- ・eポートフォリオ manaba の構築
- ・しま体験教育プログラム(試行)

2. その他

- ・COCプロジェクト連絡会議について
- ・平成25年度事業経過報告書について
- ・平成26年度文部科学省地(知)の拠点整備事業申請・採択状況について

・第4回 平成26年10月28日(火) 10:40～

1. 各部会からの報告

①地域志向教育部会

- ・しま体験教育プログラム試行の実施について

②地域との連携部会

- ・地域公開講座の開催について
- ・学園祭への出店について

③eラーニング構築部会

- ・部会実施、今後の予定等について

2. その他

- ・しま体験教育プログラム試行報告会開催案について
- ・COCプロジェクト連絡会議について
- ・地(知)の拠点整備事業九州・沖縄地区シンポジウムについて
- ・学部学科再編後の新カリキュラムにおける地域科目について
- ・本学COC事業パンフレットについて

・第5回 平成27年2月3日(火) 16:20～

1. 審議事項

サテライトキャンパス及びコーディネーターの配置について

2. しま体験教育プログラム(試行) 報告会開催報告

3. 各部会からの報告

①地域志向教育部会

・会議の開催状況、今後の予定等について

②地域との連携部会

・平成25年度地域志向教育研究経費報告書の作成・配付について

・女性のキャリア教育支援について

③eラーニング構築部会

・会議の開催状況、今後の予定等について

4. その他

・平成26年度第2回COCプロジェクト連絡会議について

・平成27年度の予算及び取り組みについて

・本学COC事業パンフレットについて

・COC関係他大学訪問について

・第6回 平成27年3月18日(水) 10:30～

1. 審議事項

①しま体験教育プログラムの名称変更について

②しまのフィールドワークにかかる学生負担金について

③COCプロジェクト推進本部規程の改訂について

④COCプロジェクト評価実施要領について

2. 報告事項

①平成27年度予算(案)について

②平成26年度第2回COCプロジェクト連絡会議について

③コーディネーター等の設置状況について

④女性のキャリア教育支援について

3. その他



2 COCプロジェクト連絡会議

- 第1回 平成26年8月6日(水) 13:00~14:15
 - 1. 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)の実施状況について
 - ① 今年度の申請内容について
 - ② 「しま体験教育プログラム」の試行について
 - ③ 地域との連携事業の実施について
 - 地域公開講座の開催について
 - 学園祭への出店について
 - 2. その他

- 第2回 平成27年2月18日(水) 13:00~15:00
 - 1. 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)の実施状況について
 - I 今年度の実績について
 - ① 研究に関する事項
 - ② 地域貢献に関する事項
 - 2. 「しま体験教育プログラム」について
 - I 平成26年度試行の報告について
 - II 平成27年度の「しま体験教育プログラム」について
 - ① 「しま体験教育プログラム」年間スケジュール
 - ② しま(地域)からの要望事項
 - ③ 平成27年度「しま体験教育プログラム」の第3回講義時における「しま」の関係者への依頼事項
 - ④ 「しま」のフィールドワーク実施時における依頼事項
 - ⑤ コーディネーターの紹介について
 - 3. サテライトキャンパスの設置について
 - 4. その他



3 COCプロジェクト評価委員会

・平成26年4月25日（金）14：30～15：30

1. 開 会
2. 委員長の選任
3. 長崎県立大学 COC プロジェクトの取組みについて
4. 閉 会



長崎県立大学 COC プロジェクト評価実施要領

平成 27 年 3 月 18 日

1. 趣旨

長崎県立大学 COC プロジェクト評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う「長崎のしまに学ぶ ― つながる とき・ひと・もの ―」（以下「事業」という。）の事業評価を適切に行うため、評価の実施に関し必要な事項を定める。

2. 評価の目的

評価委員会が行う評価及び提言は、自主的な事業運営の見直し及び改善を促し、もって事業の質の向上、事業運営の効率化及び透明性の確保に資することを目的とする。

3. 評価の基本方針

- (1) 事業評価は、5か年の事業実施計画の達成に向けた業務の進捗状況及び事業実施による成果を確認する観点から行う。
- (2) 事業評価は、長崎県立大学 COC プロジェクト推進本部（以下「推進本部」という。）の自己評価に基づくものとする。

4. 事業評価の実施方法

事業評価は、推進本部の自己評価に基づき作成する事業評価報告書により実施する。

5. 事業評価実施スケジュール

事業評価は事業実施期間中に4回開催する。

- (1) 2年目までの実績についての評価を平成 27 年 4 月に実施
- (2) 3年目の実績についての評価を平成 28 年 4 月に実施
- (3) 4年目の実績についての評価を平成 29 年 4 月に実施
- (4) 5年目の実績及び5か年実績についての評価を平成 30 年 4 月に実施

6. 推進本部の自己評価

(1) 事業評価報告書の作成にかかる留意事項

推進本部は次の事項に留意し、年度計画における実施計画の項目ごとに、業務の推進状況等について事業評価報告書に記載する。

- ① できる限り客観的な情報・データを用いて具体的に記載するよう留意する。
- ② 当該事業の取組の実績が年度計画で定めた計画どおり進められていない場合は、その理由及び次年度以降の取組みの見通しを併せて記載する。

③特筆すべき事項等があれば次により記載する。

- ・年度計画には記載していないが、力を入れて取り組んでいるもの
- ・その他、評価委員会に報告すべき状況など

④必要に応じて、関連資料を添付する。なお、評価委員会は評価を行うにあたり、必要と認められた資料について、追加資料の提出を求められることができる。

(2)項目別評価

推進本部は、年度計画の記載事項ごとに、業務の進捗状況を次に掲げる年度計画の項目別評価基準に基づき、4段階で自己評価するとともに、できるだけ客観的なデータに基づき、その業務を行ったことによる成果も踏まえ、業務の実施状況及び自己評価の判断理由を記載する。

また、推進本部の判断により年度計画の記載項目を複数まとめて自己評価することができるものとする。

評価	年度計画の項目別評価基準
Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を順調に実施している
Ⅱ	年度計画を十分に実施していない
Ⅰ	年度計画を実施していない

(3)全体評価

推進本部は、年度計画の項目別評価を踏まえ、事業全体における目標の達成状況、進捗状況を総合的に評価する。

(4)自己評価結果の評価委員会への報告

推進本部は、各年度の自己評価結果について、原則として翌年度の4月10日までに評価委員会に報告するものとする。

7. 評価委員会による評価

(1)推進本部による自己評価の検証

評価委員会は、推進本部から報告を受けた事業評価報告書及び必要に応じて求める追加資料の提出を受け、業務の実績等を確認のうえ、推進本部の自己評価を検証する。

(2)項目別評価

評価委員会は、推進本部の自己評価の検証を踏まえ、年度計画の記載事項ごとに、業務の進捗状況を年度計画の項目別評価の評価基準に基づき、4段階で評価する。

なお、推進本部の自己評価と評価が異なる場合は、その理由を付記する。

(3)全体評価

評価委員会は、年度計画の項目別評価を踏まえ、事業全体における目標の達成状況、進捗状況を総合的に評価する。

また、改善すべき事項があれば付記する。

(4) 事業評価結果の推進本部への通知

評価委員会は、事業評価結果を推進本部に通知する。

8. 評価結果の反映

(1) 評価委員会から事業評価結果の通知を受けた推進本部は、結果を関係部局に伝達する。

(2) 評価結果がⅠ又はⅡで、改善を求められた事項については、関係部局の委員が中心となって、部局での改善計画を立案し可及的速やかに改善を行う。

9. 評価結果の公表

事業評価結果については大学ホームページに掲載する方法により公表する。

10. その他

この要領については、事業評価の実施結果等を踏まえ、必要に応じ、評価委員会の協議を経て見直すことができるものとする。

4 各種取組

(1) 地域志向の教育

地域志向の教育に関する部会では、しま体験教育プログラムの試行を実施した。参加者は、学生 271 名、教員 28 名であった。試行においては、4回にわたり事前指導を行い、その中で作成した計画を基にフィールドワークを行った。フィールドワークの成果については、対馬市・五島市・壱岐市で報告会を開催し、学内では経済学科の報告会を平成 26 年 12 月 9 日に開催した。

また、試行の結果を踏まえ、平成 27 年度からのしまなびプログラムの本格実施に向けて、講義科目「長崎のしまに学ぶ」及び演習科目「しまのフィールドワーク」のシラバスを作成するとともに、学生用・教員用のマニュアルを作成した。

<しま体験教育プログラム試行について>

- フィールドワーク一覧・・・資料 1
- 対馬報告会・・・・・・・・・・資料 2
- 五島報告会・・・・・・・・・・資料 3
- 壱岐報告会・・・・・・・・・・資料 4
- 経済学科報告会・・・・・・・・資料 5

<シラバスについて>資料 6

<学生用・教員用マニュアルの作成について>資料 7

<しま体験教育プログラム試行について>

事前指導においては、PBL 学習法を積極的に導入し、また e ラーニングシステムを活用しながら、本格実施に向けての課題の抽出や情報収集を行った。



第1回 事業内容説明



第1回 学生の様子



第2回 グループディスカッション



第2回 KJ法による作業



第3~4回 グループ討論

・フィールドワーク一覧

	日程	しま名	テーマ	指導教員	学科	学生数
1	9/1～ 9/3	新上五島	佐世保⇄新上五島間での「小さな旅」を目的とした観光マップの作成	奥山 忠裕 山本 裕	地域政策学科 流通・経営学科	26名
2	9/2～ 9/4	的山大島	平戸牛に関する経営管理の実態	大田 謙一郎	流通・経営学科	6名
3	9/8～ 9/10	五島	A班・・・五島の観光 B班・・・五島の魅力を知る	植野 貴之	経済学科	11名
4	9/8～ 9/10	五島	しまの農水産業と地域資源活用の現状と課題	木村 務	経済学科	11名
5	9/9～ 9/12	五島	五島の現状と地域活性化の方策(観光地としての魅力の観点から)	古河 幹夫	経済学科	12名
6	9/12～ 9/14	壱岐	A班・・・しまと通貨を広めるためにはどうすればいいか B班・・・観光による町おこし C班・・・壱岐の経済活動の歴史	矢野 生子	経済学科	11名
7	9/13～ 9/15	五島	世界遺産登録における意識調査(島内の教会地区における意識調査)	生田 和也	国際交流学科	7名
8	9/13～ 9/15	対馬	対馬に対する意識の違い(学生、地元、観光客との違い)	藤沢 望	情報メディア学科	7名
9	9/13～ 9/15	壱岐	壱岐の魅力の情報発信(PR映像作成)	吉光 正絵	情報メディア学科	6名
10	9/17～ 9/19	宇久	宇久島の調査(人口、高齢化、過疎化、産業、後継者、産業再生、教育、学校統廃合、観光、歴史)	阿部 律子	地域政策学科	15名
11	9/17～ 9/20	新上五島	新上五島における環境問題への取り組みの現状と課題、住民の環境意識調査	宮崎 明人	地域政策学科	11名
12	9/19～ 9/21	小値賀	野崎島の調査(歴史と観光)	綱 辰幸	経済学科	8名
13	11/22～ 11/24	小値賀	長崎県広域景観形成推進事アクションプランの現状と課題	車 相龍	地域政策学科	15名
14	9/26～ 9/28	壱岐	大陸派遣施設・倭寇から見る「大陸と壱岐のつながり」	周 国強	国際交流学科	3名
15	9/26～ 9/28	壱岐	壱岐の活性化(観光客の増加)	関谷 融	国際交流学科	7名
16	9/26～ 9/28	対馬	対馬の「絆」(島民との交流を通して)	中島 洋	情報メディア学科	5名
17	9/26～ 9/28	対馬	対馬の歴史	松本 恵理子	情報メディア学科	7名
18	9/26～ 9/28	小値賀	小値賀の幸福度(小値賀の声)	前村 葉子	情報メディア学科	6名
19	9/26～ 9/28	小値賀 (新上五島)	限界集落を訪ねて	河又 貴洋	情報メディア学科	3名
20	9/26～ 9/28	五島	教会の世界遺産登録について	P.ピヤ	情報メディア学科	7名
21	9/26～ 9/28	五島	観光スポットに対する意識の違い(島民と観光客との違い)	井ノ上 憲司	情報メディア学科 国際交流学科	3名
22	9/26～ 9/29	対馬	対馬の魅力調査	吉本 諭	地域政策学科	15名
23	10/10～ 10/11	壱岐	壱岐の自然と歴史に学ぶ	柳田 芳伸、尹 清洙 谷澤 毅、西島 博樹	経済学科 流通・経営学科	40名
24	11/1～ 11/3	対馬	海から見た東アジア世界(対馬の歴史と現代を体感し、境界地域からの視野を得る)	長濱 幸一 石川 雄一	経済学科 地域政策学科	29名

合計

271名

・対馬報告会

○開催日：平成26年12月6日（土）13時～15時

○場 所：対馬市交流センター4階研修室

○参加者：31名（うち、高校生10名）

○その他：報告会終了後、進学ガイダンスを実施。（15時半～16時半）
参加した本学学生と対馬高校の学生が交流を行った。

【次 第】

1. 開会

2. 学生発表

- ① もってこい対馬！ ～もっと多くの人に対馬の魅力を広めよう～
（国際情報学部国際交流学科 1年 浦川 佳絵）
- ② 対馬の魅力調査（経済学部地域政策学科 2年 疋田 知里）
（経済学部地域政策学科 2年 榎本 民子）
- ③ 対馬の魅力を伝えたい ～しま体験教育プログラム～
（国際情報学部情報メディア学科 1年 金柿 汐里）
- ④ 対馬のフィールドワークの報告
（国際情報学部情報メディア学科 1年 宮川 直人）
- ⑤ 対馬市の商業環境の変化に関する調査
（経済学部地域政策学科 3年 加藤 亮輔）

3. 意見交換

4. 閉会



学生発表



意見交換

・五島報告会

○開催日：平成27年 1月24日（土）14時～16時15分

○場 所：五島市役所

○参加者：43名

○その他：高校生の参加は無く（当日模試が実施されていた）、当初予定した時間を経過して地域の方と意見交換を行った。

【次 第】

1. 開会

2. 学生発表

- ① 五島の観光の現状（経済学部 経済学科 2年 川上 大輝）
（経済学部 経済学科 2年 今村 祐之介）
- ② そうだ五島に行こう！～五島の魅力を知る～
（経済学部 経済学科 2年 平尾 亘裕）
（経済学部 経済学科 2年 松永 頼俊）
- ③ 五島漁業の現状と課題（経済学部 経済学科 2年 檜垣 亮次）
- ④ 五島農業の挑戦（経済学部 経済学科 2年 山本 遼）
- ⑤ 五島 しま体験レポート（経済学部 経済学科 2年 菊池 秀和）
- ⑥ 五島の魅力調査
（国際情報学部 国際交流学科 1年 川原 優希絵）
（国際情報学部 国際交流学科 1年 山口 紗恵）
- ⑦ 教会群の世界遺産登録について
（国際情報学部 情報メディア学科 1年 井川 このみ）
- ⑧ 五島をより良い観光地に
（国際情報学部 情報メディア学科 1年 國生 茉由）
（国際情報学部 情報メディア学科 1年 國頭 岬）

3. 意見交換

4. 閉会



学生発表（質疑）



意見交換

・ 壱岐報告会

○開催日：平成27年 1月25日（日）14時～16時

○場 所：一支国博物館3階講座室

○参加者：35名（うち、高校生20名）

○その他：報告会終了後、進学ガイダンスを実施。（16時～16時15分）
参加した本学学生と壱岐高校の学生が交流した。

【次 第】

1. 開会

2. 学生発表

- ① 『しまとく通貨』について～離島経済活性と地域経済振興の先駆け～
（経済学部 経済学科 2年 渡辺 将史）
- ② 壱岐プロジェクト総括（経済学部 経済学科 2年 下馬場 翔太）
- ③ 壱岐の経済活動の歴史と島プロの反省点
（経済学部 経済学科 2年 坂口 雄磨）
- ④ 壱岐の魅力の情報発信
（国際情報学部 国際交流学科 1年 山口 恵奈）
（国際情報学部 情報メディア学科 1年 谷本 帆南）
- ⑤ 高校中国語教育の発展を願って～壱岐高校との交流～
（国際情報学部 国際交流学科 2年 横山 蓮）
- ⑥ しま研修－壱岐－報告まとめ
（国際情報学部 情報メディア学科 2年 古賀 真由美）
- ⑦ これからの壱岐を考える ～壱岐の実態と私たちの経験を通して～
（経済学部 流通・経営学科 2年 橋本 龍太郎）
- ⑧ 壱岐での研修を終えて ～活性化の視点から～
（経済学部 流通・経営学科 2年 筒井 汐輝）
（経済学部 流通・経営学科 2年 石崎 凌）

3. 意見交換

4. 閉会



学生発表



意見交換

・経済学科 報告会

開催日：平成26年12月9日（火）12：30～

本学地域連携センター 中島特任教授の挨拶のあと、今年度の「しま体験教育プログラム」の試行に参加した経済学科の学生が、「対馬における漂着ゴミ問題ー海から見た東アジア世界ー」、「世界遺産と小値賀町」、「島と一緒に生きる」など、各グループで討議し、決定したテーマに関して、現地でのアンケート調査等の結果等を発表した。



＜シラバスについて＞

カリキュラム区分	科目名		単位数
2014年度以降入学生	長崎のしまに学ぶ		2
	【経済学部 2014年度入学生】【国際情報学部 2015年度入学生】		
担当者職・氏名	教授・古河幹夫、西道彦、阿部律子、長沼信之、西島博樹、関谷融、講師・前村葉子		
授業概要とテーマ	長崎県の離島（しま）について主体的に学び、しまにおけるフィールドワークのテーマを設定し、フィールドワークの実施計画の立案等に、学生同士や地域コミュニティと協働して取り組むことにより、自立的・積極的な学びの姿勢を身につける。		
到達目標	①長崎県の離島（しま）の現状を理解し、特徴や課題を発見することができる。 ②フィールドワークの具体的実施計画をテーマ、手段、手法に系統だてて立案できる。 ③与えられた課題に対して主体的に取り組むことができる。 ④グループワークにおいて、他者の意見を尊重し、自分の考えをまとめ発言することができる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1	ガイダンス	①「しまを学ぶ」科目群の説明と当該科目の位置づけ②PBLによる授業③社会人基礎力④e-ポートフォリオ⑤授業マニュアルについてのガイダンス
	2	「しま」について	①県下における「しま」の概要の把握と理解（県企画振興部の職員による「しま」の現状についての講話）②フィールドワークを行うしまの希望調査
	3	長崎のしまについて	しまのフィールドワークを行う「しま」ごとの概況説明と意見交換
	4	グループワーク①	①フィールドワークのグループ編成②フィールドワークのテーマについての意見交換（KJ法活用）③グループとしてのテーマの方向性の決定
	5	グループワーク②	①フィールドワークのテーマの決定②計画書作成についての基本事項の確認③実施時期の検討
	6	グループワーク③	①テーマに対する達成目標の決定②達成方法の検討③フィールドワーク実施時期の決定
	7	グループワーク④	①テーマに関して収集した情報の提示と確認②目標の達成方法の決定③課題・達成目標・達成方法の確定
	8	中間発表Ⅰ	①中間発表②課題・達成目標、達成方法の修正③実施計画書の作成開始
	9	グループワーク⑤	実施計画書の作成
	10	グループワーク⑥	実施計画書の作成（完成）
	11	グループワーク⑦	実施計画書を活用した中間発表の準備
	12	中間発表Ⅱ	実施計画書を活用した中間発表
	13	グループワーク⑧	①最終計画書の作成②アンケートについての検討③フィールドワークにおける協力者、対応者等へのアポイントの検討
	14	グループワーク⑨	①最終計画書の作成②アンケート内容の決定③しまにおける移動手段等の詳細スケジュールの作成
15	グループワーク⑩	フィールドワークにむけての最終確認・調整	
学生に対する評価	G（合格）・H（不合格） 2/3以上の出席が必要 ポートフォリオを使った課題提出、グループワークでの成果物の提出、グループワークにおける貢献度、自己診断の結果、フィードバックの内容により判断する。		
テキスト	長崎のしまに学ぶテキスト（デジタル版）、実施マニュアル、e-ラーニング配信教材		
参考文献	「旅する長崎学」（長崎文献社）、市勢要覧、町勢要覧、長崎の離島（長崎県）		
科目のキーワード	PBL、しま、e-ポートフォリオ、グループワーク		
授業の特徴	①PBL（project based learning 課題解決型学習法）で実施する。 ②1グループ10名程度で構成する。 ③e-ポートフォリオを活用する。		
関連科目	「しまのフィールドワーク」		
履修上の注意等（履修条件等）	「しまのフィールドワーク」の履修には、本科目の修得が必要である。		

カリキュラム区分	科目名		単位数
2014年度以降入学生	しまのフィールドワーク		2
	【経済学部 2014年度入学生】【国際情報学部 2015年度入学生】		
担当者職・氏名	経済学科教員 地域政策学科教員 流通・経営学科教員 国際交流学科教員 情報メディア学科教員		
授業概要とテーマ	長崎県の離島（しま）の現状について、しまにおけるフィールドワークを通して体感するとともに、自らが考えたテーマについて主体的、実践的な活動を行い、その結果を報告書としてとりまとめ、発表する。		
到達目標	①しまでのフィールドワーク、インタビューやアンケート等を通して得た情報と、「長崎のしまに学ぶ」で収集した資料などを合わせて、課題を発見し分析することができるようになる。 ②しまでのフィールドワークについて主体的に取り組むことができる。 ③チームでの活動において、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1	主題	内容
	2	事前打ち合わせ	フィールドワーク実施前日にグループで集まり、全日程の確認、調整、打ち合わせを行う
	3	フィールドワーク1日目	しまへ移動し、計画書に沿ってグループ毎に活動
	4	フィールドワーク2日目	計画に沿ってグループ毎に活動
	5	フィールドワーク3日目	計画に沿ってグループ毎に活動
	6	フィールドワーク4日目	(午前) 計画に沿ってグループ毎に活動(午後) 発表会の実施
	7	フィールドワーク5日目	フィールドワーク活動のまとめ、移動
	8	最終報告書の作成①	フィールドワークの結果を基にした最終報告書を作成するため、役割分担等を確認し、作成を開始する。並行し発表会の準備も開始する。
	9	最終報告書の作成②	引き続き最終報告書及び発表会の準備を行う。
	10	最終報告書の作成③	最終報告書を完成させる。模擬発表を行う。
11	発表会	最終報告書によりプレゼンテーションを行い、相互に評価する	
学生に対する評価	G (合格) ・ H (不合格) フィールドワーク参加が必要。日数が不足する場合は、不足する日数について、別途実施されるフィールドワークに参加する必要がある。		
テキスト	長崎のしまに学ぶテキスト(デジタル版)、実施マニュアル、e-ラーニング配信教材		
参考文献	「旅する長崎学」(長崎文献社)、市勢要覧、町勢要覧、長崎の離島(長崎県)		
科目のキーワード	しま、フィールドワーク		
授業の特徴	①1グループ10名程度でしまで4泊5日のフィールドワークを行う ②e-ポートフォリオを活用する ③報告書を作成し、発表会で報告を行う		
関連科目	「長崎のしまに学ぶ」		
履修上の注意等 (履修条件等)	「長崎のしまに学ぶ」を履修していること		
	・フィールドワーク実施時期は、次の5週のうちのいずれかで4泊5日を実施する。荒天等により予定が変更する可能性がある。		
	第1週	8月18日(火)～22日(土)	第2週 8月25日(火)～29日(土)
	第3週	9月1日(火)～5日(土)	第4週 9月8日(火)～12日(土)
	第5週	9月15日(火)～19日(土)	予備週 9月22日(火)～26日(土)

全学共通科目「しまに学ぶ」の授業実施にあたって
(学生用・教員用マニュアルの作成について)

講義科目「長崎のしまに学ぶ」

演習科目「しまのフィールドワーク」

1 科目観

- ① この授業は、本県のしま（離島）を一つのキャンパスと位置付けし、しま地区における地域社会の現状、課題、将来について学生が自ら考える科目。
- ② しま地区住民と交流し、しま地区の今日的な課題を主体的かつ多角的にとらえ、その解決に向けた方策をしまの方々と一緒に考えていこうとする科目。
- ③ 本授業は、PBL（project based learning 課題解決型学習法）学習法で授業が展開される。したがって、主体的・実践的な学び（AL：アクティブラーニング）が基本であり、積極的な姿勢が求められる科目。
- ④ PBL学習を促進させるため、e-ラーニングを意図的・意識的に活用する科目。
- ⑤ 進捗、経過などの各自のプロセスはそれぞれがe-ポートフォリオ等にて自らが管理（LMS：ラーニングマネジメントシステム）する科目。

2 ねらい

- ① 学生の学びの姿勢の確立（学びの在り方の転換）
- ② 学生の社会人としての基礎的な力の醸成

3 到達したい目標

- ① 自らがすすんで課題に取り組むことができる（主体的な学習態度、積極性）
- ② 多様な視点や意見と交流し、自分の考えをまとめ発信できる
(協調性、コミュニケーション力)
- ③ 困難を乗り越えていき、ストレスコントロールができる（自己統制力）
- ④ 社会的な存在としての責務・役割を体得できる（社会人としての自覚）
- ⑤ 社会に貢献する意欲が醸成できる（社会貢献力）

4 講義科目「長崎のしまに学ぶ」の授業展開

(1) 指導上の留意点

- ① 学生が主体となって取り組む科目だとの認識
- ② 教員は学習支援、相談、助言の立場であるとの姿勢（ファシリテーター）
- ③ 学生をつまづきも学習の一環との認識（待ちの姿勢）
- ④ 学生の甘い判断・ディスカッションには、根拠（「なぜ」）を追及する姿勢

(2) 科目の展開

①第一段階

- PBL 授業の進め方の徹底
- 班（グループ）のルール、役割分担の徹底
（リーダー役は、数回の講義の経緯から学生が自然と選出）
（各回の司会、記録役は交替制）、
- 班（グループ）ディスカッションの活性化のため、ペアーディスカッションを適時、積極的に導入
- 班員間のメール等による情報共有の指導
- e-ポートフォリオによる自己管理（まとめ、進捗状況）（すべての過程）

②第二段階

- しまに関する情報の収集
 - ・ しまの概要の認識・・・概要をビデオ等で紹介（e-ラーニング）
 - ・ しまの関係者からの意見聴取・・・しま出身の学生の発表
しま在住者の発表（役場、商工会、など）
 - ・ しまの関係者との意見交換・・・しま出身の学生、在住者、市町役場職員
 - ・ 知事部局のしま担当者の発表と意見交換
 - ・ 文献による収集（参考文献の提示・・・しま体験プロジェクトWG編、
離島統計年報
（図書館の活用・・・パスファインダー
白書
各種データベース（日経テレコンなど
新聞記事（聞蔵、ヨミダス歴史間など）
 - ・ インターネットによる収集・・・各市町のホームページ
（各市町の各種統計、市町政の課題など）

（各省庁のホームページ（白書、統計物））

③第三段階

- テーマ（課題）の設定
 - ・ 資料に基づくテーマの設定（思い付きではなく、根拠に基づく設定）
 - ・ 仮テーマの段階で、根拠に基づくディスカッションをおこない、再検討の後、本テーマとしての設定
 - ・ 各自のテーマを班（グループ）としてのテーマに収れんさせる取り組み
 - ・ しまの関係者からの助言の活用（しまのコーディネーター）

- テーマ（課題）に対する具体策の検討
 - ・資料に基づく検討
 - ・しまの関係者からの助言の活用

④第四段階

- テーマと具体策の振り返り
- 中間発表の実施
- 他の発表を聴取し、改善点を確認
- 具体策の再検討及び再構築

⑤第五段階

- 具体策のフィールドワークにおける実施計画の検討
- フィールドワークの日程の作成
- フィールドワークにおける移動手段の決定と予約
- しまの関係者からの助言の活用
- 依頼状の発送
- しまにおける発表準備

5 演習科目「しまのフィールドワーク」の展開

(1) 指導上の留意点

- ① 学生の健康状態、出欠の確認
- ② 一日のフィールドワークの日程の確認
- ③ 班別の活動状況の確認と積極的な活動への啓発（指導）
- ④ 学生の問い合わせへの対応
- ⑤ しまのコーディネーターをはじめ協力者との連携がスムーズになるような橋渡し
- ⑥ 現地での発表に係る指導
- ⑦ 団体行動が取りにくい学生の対応

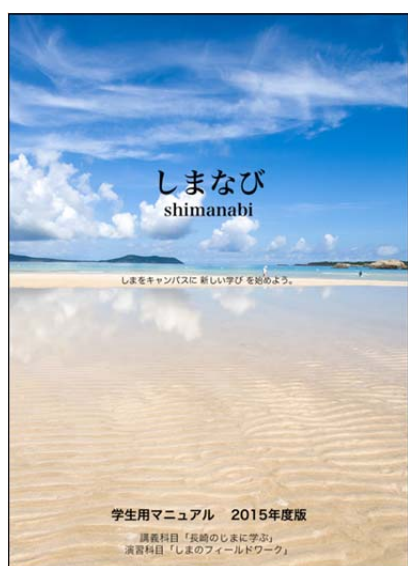
(2) 科目の展開

- ① 第一日目
 - 午前中 移動
 - 午後 開講式、ミーティング（フィールドワークの修正）
- ② 第二日目、第三日目
 - 午前 現地調査など
 - 午後 現地調査、ミーティング（フィールドワークの修正）

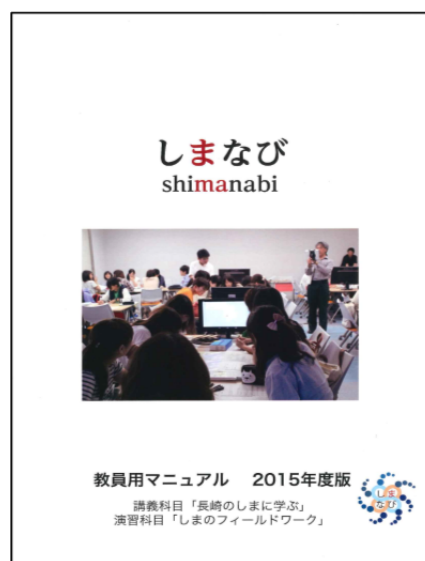
- ③ 第四日目
 - 午前 しまにおける報告会への準備
 - 午後 報告会、しまの関係者との意見交換
- ④ 第五日目
 - 散策、移動

6 授業展開において検討すべき主な課題

- ① 団体行動が取れない学生の対応
- ② 食事、宿泊室、など個別な対応が必要な学生の対応
- ③ オリエンテーションにおけるしまの代表者の意見聴取のあり方
- ④ 各班1台のタブレットの情報の共有について
(技術的には、個人のパソコンでも同じ画面を視聴できる)
- ⑤ 自由にいつでも使用できるオープンルームの設置 (IT環境の整備)
- ⑥ 資料収集に関する情報の提示方法
 - ・図書館のパスファインダーの作成
 - ・情報処理室 (AV編集室) の所蔵内容の集約
 - ・県立大学内のその他の情報の所蔵の場所の提示 など
- ⑦ フィールドワークに関する (考えさせる) 文献 (資料) の提供
(内容、量)
- ⑧ 収集した資料の分析に関する (考えさせる) 文献 (資料) の提供 (内容、量)



学生用マニュアル



教員用マニュアル

(2) 地域志向の研究

地域志向の研究に関する部会では、地域志向教育研究費について、応募要領を策定し、平成26年5月14日付けで全教員に対し募集を行った。

- ・ 募集期限 平成26年6月4日（水）
- ・ 審査会開催 平成26年6月16（月）～平成26年7月2日（水）
- ・ 審査結果通知 平成26年7月7日（月）

その結果、申請件数11件のうち5件を採択し、平成26年7月7日付けで関係する教員に対し通知を行った。

なお、採択した5件は下記のとおりである。

研究領域	代表者		研究課題	
	所属	氏名	テーマ	目的
教材の開発	個人	国際情報 吉村元秀	ICTを利用した長崎県観光情報の空間的可視化	現在、長崎県では、2022年の九州新幹線・長崎ルートの開通に向け、5つの観光振興の戦略として5つの指針を掲げている。それらの中でも「地域の魅力をネットワークする広域連携の促進」は、特に重要な指針である。約600の美しい自然に恵まれた「しま」を有する長崎県での広域連携は、本学のCOC事業である「長崎のしまに学ぶ一つながるとき・ひと・もの」と相通じる課題である。本研究では、長崎の地域の魅力を空間的につなぐ観光情報の空間的可視化システムの構築を目的とする。本研究は、3つのサブテーマで構成されている。第一は、インターネット上の地理情報システムを用いた観光情報の可視化、第二は、マルチメディア技術を駆使した長崎独自の風景の映像化、第三は、拡張現実技術を用いた長崎観光の効率化である。第一では、長崎の点在する観光情報をGPS座標を用いて地図上にマッピングし、観光情報を空間的につなぐシステムを開発する。第二では、長崎が有する歴史的な建造物や自然豊かな風景など特色ある空間をプロフェッショナルに映像化し、YouTube上でアーカイブ化したものを効率的に閲覧するWebサイトを構築する。第三では、長崎の観光プロジェクトであるささくをターゲットとして、拡張現実空間を用いて、スマートデバイスのカメラを通してデバイス上に表示されたささくの現実空間とインターネット上の観光情報を端末上でつなげる観光案内システムを開発する。
人材育成	個人	看護栄養 富永美穂子	長崎県の離島地域産業を核とした教育カリキュラム開発に関する研究	都市部に人口が集中し、地方の過疎化が進み、農林水産業、地域（伝統）産業が衰退の危機にある。特に地方の個人・家族経営の農林水産業従事者は、その労働および収入の厳しさから子息を後継者としないうえ、高齢化し、次世代への継承が失われていく状況にある。他方、若者の地元志向は高くなる傾向にあり、地方でそれ相応の経済力が保証されれば、若い世代が生まれ育った地域に残り、衰退の危機から脱出できる可能性がある。そこで、過疎化等が進む長崎県内離島地域を対象に地域で地域に還元できる人材を育成し、地域活性化と共に地域（伝統）産業等を次世代に発展的に継承していくことを目的に、学校教育における教科指導の枠組みを捉え直し、地域産業等に必要とされる要素（地域の実情・生活に直結する要素）から新たなカリキュラム構築の可能性を探る。その可能性を探るためにオーストリアにおける産業と教育が連動した実践的教育であるデュアル（二元制）システムのカリキュラム構成に関する資料並びに日本国内の取り組み事例に関して情報収集し、得られた知見をもとに対馬或いは五島地域の農林水産業のひとつを取り上げ、カリキュラム開発を検討する。

研究領域	代表者		研究課題	
	所属	氏名	テーマ	目的
健康増進	共同	看護栄養	古場一哲	<p>長崎県産黒大豆の品種(遺伝子的背景)および機能性に関する研究</p> <p>本研究は、平成24年度の学長裁量教育研究「長崎県産の大豆および黒大豆の機能性に関する研究」の結果を踏まえた内容で、病態モデル動物を用いて黒大豆のメタボリックシンドローム改善機能を明確にする。 大豆タンパク質の画分であるβ-コングリニンは、体脂肪低減や血清脂質濃度低下作用に加え、血圧上昇抑制作用も示すことを私たちはごく最近観察している。一方、黒大豆種皮のポリフェノールには抗肥満作用や血流改善作用が報告され、黒大豆には脂質代謝・血圧調節改善において大豆より優れた食品としての期待がかかる。本研究では自然発症高血圧ラットを用い、通常大豆と黒大豆の脂質代謝・血圧調節パラメータの変化を比較し、食品としての黒大豆の有効性を作用機序も含め明らかにする。 佐世保市江迎地区では、近年、「黒大豆オーナー制度」による黒大豆の栽培が行われ、地域の活性化が試みられているが、その知名度は低い。本研究では、DNA品種識別技術を用いて佐世保市江迎地区生産されている黒大豆の品種を特定し、地域ブランド化にむけての客観的情報の明確化を行う。一般に、黒大豆は、「丹波の黒豆」など全国ブランドにおかれており、長崎県産黒大豆の遺伝子的背景と機能性を明らかにすることは、人々の健康に寄与するデータを地域社会に提供するとともに、長崎県の農産物の活性化にも貢献することが期待される。</p>
		経済	西島博樹	<p>長崎県の離島における地域小売商業構造の動態分析</p> <p>長崎県の離島における消費者構造の動態変化(高齢化、人口減少)という抗しがたい構造変化に焦点を当て、喫緊の社会問題と化している地域小売商業構造の動態変化(小売商業の存続問題、買い物弱者問題)に関する実証分析を実施する。まず、離島の自治体へのインタビュー調査や地域住民へのアンケート調査を通じて、消費者構造変化の実態と直面する課題を把握する。次に、小売業者へのインタビュー調査を試みて、供給者側に立った問題の実態を解明する。地域小売商業問題に関する研究は、問題の深刻さから、多くの事例研究が報告されているが、その大部分は総論的な事例報告にとどまっているのが現状である。それらの決定的な欠点は、離島地域(いわゆる条件不利地域)での現地実態調査がほとんど行われていないことである。本研究の目的は、実証分析における空白地帯を埋めることであり、この研究によって都市部、農山村地域、離島地域の比較研究を可能にする貴重な基礎資料を提供することになるであろう。なお、昨年度は長崎県の地域力というキーワードを設定して現状分析を試みたが、今年度はより焦点を絞った専門的な観点(商業論)から長崎県離島の抱える現実問題についてアプローチしていきたい。</p>
産業振興	共同	看護栄養	田中一成	<p>長崎県産農産物の機能性解明と産業的応用</p> <p>長崎県内には多様な農産物が生育しており、県内自治体ではそれらを活用して地域の活性化に繋げようと取り組んでいるが、必ずしも十分な成果をあげていない。本研究では、長与町の規格外のミカンから製造したジュレ、長与町産のオリーブ、松浦で栽培されているハナビラタケ、諫早産のキクイモ、対馬固有の緑豆の一種マサラを地域活性化の素材として取り上げ、各産物がヒトの健康に寄与する機能性を見出し、それを機能性を有する食品、あるいは食品素材として製品化することを目指す。これらの素材については、申請者のこれまでの研究から、動物実験において脂質代謝改善作用を有することを明らかにしており、また機能性発現に関与する成分を含有していることから、機能性食品を開発することは十分に可能であると見込まれる。本研究においては、機能発現のメカニズムを明らかにすることで、そのメカニズムから想定される製品開発を行う。さらに、機能性以外に、素材の物理的、化学的特徴を活かしたおいしい加工品を創成することで、消費者のニーズに合う製品づくりを行うことも目的とする。このような取り組みを自治体と協同して行うことで、自治体の活性化に寄与することを目指す。</p>

平成26年度 長崎県立大学地域志向教育研究経費 応募要領

I 地域志向教育研究経費の目的と領域

1. 目的

地域志向教育研究経費は、平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択された「長崎のしまに学ぶ 一つながる とき・ひと・もの」（以下「事業」という。）を推進するにあたり、研究の成果を通じて地域に新たな活力を与え、地（知）の拠点として地域に貢献することを目的とする。

2. 研究課題の領域

①「長崎のしまに学ぶ」ための教育の推進に関する研究

ア 「教材の開発」に関する研究

イ 「eラーニング」に関する研究

ウ 「教育効果の検証」に関する研究

②地域課題の解決に資する研究

ア「人材育成」に関する研究

●住民協働で地域を支える人材育成 など

イ「健康増進」に関する研究

●地域での健康増進の取り組み など

ウ「産業振興」に関する研究

●地域資源を活用した食品開発

●物流・流通の効率化 など

エ「伝統文化の継承」に関する研究

●地域の伝統文化の継承とその活用 など

③その他事業を推進する上で学長が必要と認める研究

II 申請要領

1. 申請数と申請上限額

申請数は、研究代表者（個人研究または共同研究代表者）としての応募は1研究課題とし、研究分担者としての参加は、2研究課題以内（研究代表者としての応募研究を除く）とする。

申請上限額は以下のとおりとする。

1件当たり 共同研究 500万円以内

個人研究 200万円以内

2. 選定人数

選定人数は年間5人以内とする。ただし、共同研究については1研究課題につき1人とみなす。

なお、申請多数の場合、学長裁量教育研究費（重点課題研究）として採択をする場合もある。

3. 研究期間

研究期間は単年度とするが、研究計画は複数年（2～4年）とすることができる。複数年の計画であっても、採否は単年度ごとに決定するので、年度ごとに申請が必要となる。

4. 申請者の範囲

当教育研究経費の申請者（研究代表者）及び研究分担者は教育・研究・社会貢献を地域志向に改革しようとする本学の常勤教員（特任教員を含む、以下同じ。）でなければならない。また、他から類似の経費の助成を受けている者は除く。

なお、大学院生及び学外の研究者を研究協力者とすることができる。ただし、本学の常勤教員以外の者による当教育研究経費の使用は認めない。

5. 対象経費について

研究実施にあたっては、パソコン、カメラ、プロジェクタ、プリンタ、スキャナ、器具など本学既存の備品等を極力活用することとし、備品購入はやむを得ないと認める場合に限る（対象であるか判断がつきにくい場合は、事前に事務局へ相談すること）。学会参加のための旅費については、申請した研究に係る成果発表として1回分のみを対象とする。

支出に際しては、納品書・請求書等を確実に提出すること。

6. 申請方法と申請期限

（1）申請方法

「地域志向教育研究経費申請書（様式1号）」により、具体的な活動計画を記載のうえ、E-mailで事務局へ提出する。

申請書の提出はPDFとする。（PDFでの保存方法は別紙参照）、提出の際は文章の切れや記入漏れがないか十分に確認すること。

※ 共同研究の場合は、各研究分担者の「承諾書（様式1号）その6」を提出する。

（2）申請期限

平成26年6月4日（水）までに提出する。

(3) その他

申請書の使用言語は日本語とする。

Ⅲ 選考方法及び採択

別紙「地域志向教育研究経費の審査方針」に基づく。

Ⅳ 研究内容の変更

研究者の役割（研究分担者の分担内容を含む）、研究目的、研究計画、研究費配分額等の変更及び予算の大幅な変更、その他研究実施に関して申請時からの変更がある場合は、「地域志向教育研究経費 研究内容変更申請書（様式1号）その7」を速やかに事務局へ提出する。

研究内容変更申請の諾否については、副学長（研究担当）、事務局長が審査のうえ、学長が決定する。

Ⅴ 研究成果の報告と公表

- 研究成果の報告については、「地域志向教育研究経費成果報告書（様式2号）その1～その3」を研究成果の発表や研究経費使用額の報告等の必要箇所を全て記載のうえ、下記期限までに提出することを必須とする。（使用言語は日本語とする。）
- 共同研究の場合は、研究代表者が取りまとめのうえ報告する。
- 公表時期について指定がある場合は、可能時期を明記して提出すること。
- 「地域志向教育研究経費成果報告書（様式2号）その1，その2」は本学リポジトリに掲載し、研究成果を冊子化するなどして地域へ還元する場合があるので、（様式2号）その1は別添書式にて、（様式2号）その2は抄録（研究概要）2～4枚にまとめ、どちらもE-mailにて提出すること。

なお、（様式2号）その2については、掲載可能な論文形式での提出をもって替えることができる。

提出期限 平成27年3月20日（金）

- ※ 学長が特に優れた研究と判断するものについては、公開講座等での研究成果の報告を実施する。
- ※ 研究成果は、査読付論文として投稿することが望ましい。
- ※ 提出された報告書は、次年度以降の地域志向教育研究経費審査の参考とする。

(3) 地域との連携

地域との連携に関する部会では、本学と地域の連携協定等に基づき、地域との連携事業や生涯学習などを通じた社会貢献を行った。

<地域との連携事業>

- ・共同研究、受託研究、共同事業の実施・・・資料 1

<地域公開講座等の開催>

- ・地域公開講座の開催・・・・・・・・・・資料 2
- ・女性のキャリア教育支援講座の開催・・・・資料 3

<研究成果の還元>

- ・平成 25 年度地域志向教育研究における報告書の作成・・・資料 4

<特産品等のアピール>

- ・学園祭への出店・・・・・・・・・・資料 5
- ・新上五島町フェアの開催・・・・・・資料 6

<COC 連絡会議の開催>

- ・8/6 第 1 回 COC 連絡会議開催
- ・2/18 第 2 回 COC 連絡会議開催

<地域との連携事業>

・新上五島町

学科	担当教員	事業名
地域政策学科 流通・経営学科	奥山 忠裕 山本 裕	佐世保港を起点とする観光マーケティング事業
栄養健康学科	飛奈 卓郎	住民の健康増進と生活習慣病予防のための運動普及

・五島市

学科	担当教員	事業名
情報メディア 学科	森田 均	平成26年度 集落地域における「小さな拠点」形成 推進に関する調査「小さな拠点」づくりモニター調査 地域への協力（五島市奥浦地区）
情報メディア 学科	森田 均	荒川案内人育成事業：荒川さるくマップ作成とそれに 伴うフィールドワーク（地域調査）
情報メディア 学科	森田 均	五島 EV 祭りへの参画

・長与町

学科	担当教員	事業名
栄養健康学科	永田 保夫	きな粉を利用した食品事業
栄養健康学科	永田 保夫	長与町特産品（みかん、オリーブ）を利用した食品事 業
栄養健康学科	永田 保夫	食品分析や再利用についての研究
学生		地域コミュニティ再生事業
学生・教職員		地域（自治会・コミュニティ）活性化事業
学生		長与川まつり

・佐世保市

学科	担当教員	事業名
地域政策学科 流通・経営学科	石川 雄一 西島 博樹	将来都市構造実現化方策研究（※②）
流通・経営学科 経済学科 流通・経営学科	宮地 晃輔 綱 辰幸 山本 裕	製造業の生産効率改善につながる人材育成支援策の共 同研究（※①）

・平戸市

学科	担当教員	事業名
流通・経営学科	岩重 聡美 大田 謙一郎	「平戸牛のブランド化」に関するマーケティング調査事業（※②）
学生		平戸観光応援隊設置運営事業
学生		ひらどツーデーウォーク大会にかかるボランティアスタッフ支援事業

※①：共同研究

※②：受託研究

（※①、※②以外は共同事業）

<地域公開講座等の開催>

・地域公開講座

日 時	平成 26 年 5 月 8 日 (木)
場 所	新上五島町石油備蓄記念会館
時 間	9:30~11:30
テーマ	「アンチエイジングのための食事学」
講 師	武藤慶子 (看護栄養学部栄養健康学科教授)
参加者	92 名
日 時	平成 26 年 10 月 28 日 (火)
場 所	小値賀町笛吹保育所
時 間	14:00~15:00 19:00~20:00
テーマ	「家庭における子どもの事故と感染の予防」
講 師	堀内啓子 (看護栄養学部看護学科教授)
参加者	17 名
日 時	平成 26 年 11 月 26 日 (水)
場 所	吉崎市石田農村環境改善センター
時 間	14:00~15:30
テーマ	「油、コレステロールと上手につき合う」
講 師	田中一成 (看護栄養学部栄養健康学科教授)
参加者	77 名
日 時	平成 27 年 1 月 10 日 (土)
場 所	長与町水道局 3 階会議室
時 間	10:00~11:30
テーマ	「血液ドロドロと血液サラサラのウソとホント」
講 師	立石憲彦 (看護栄養学部看護学科教授)
参加者	101 名

・女性のキャリア教育支援講座

日 時：平成 27 年 3 月 16 日（月）10：00～12：00

場 所：長与町役場

時 間：1 講座 50 分×2 名

内 容：長崎県立大学の教員より、女性のワーク・ライフ・バランスや女性の
就業感・キャリアアップ、講師ご自身の働き方等について、講演を行う。

テーマ：「グローバル化する社会の中のワーク・ライフ・バランスを考える」

講 師：吉光正絵（国際情報学部情報メディア学科准教授）

「ワーク・ライフ・バランスを考える」

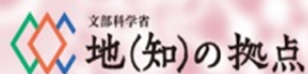
P.ピヤ（国際情報学部情報メディア学科准教授）

「アジアにおける男女の労働力の割合と広告」

参加者：30 名



女性のキャリア支援等に関する講座を開催します。
この機会に、地域の皆さんや学生の皆さんと一緒に
考えてみませんか！



女性の キャリア教育支援講座



- 日 時 : 平成 27 年 3 月 16 日 (月) 10 時~ 12 時
- 会 場 : 長与町役場
- テーマ : 「これからの女性の働き方」

日本社会における女性のワーク・ライフ・バランスや
アジアにおける男女の労働力の違いについてお話しします。

〈講師〉

吉光正絵 准教授
(国際情報学部情報メディア学科)

「ワーク・ライフ・バランスを考える」

グローバル化が進行する現代、女性の仕事と暮らしのバランスについて考える必要があります。この講座では、自分が働いている職場の風土や働き方をチェックすることでクリアすべき課題を確認し、自分らしい暮らし方について改めて考えていきます。

〈講師〉

P. ピヤ 准教授
(国際情報学部情報メディア学科)

「アジアにおける男女の労働力の割合と広告」

同じアジアの中でも、労働力の男女差は国や地域により大きく異なります。アジアの男女の労働力の割合はどのように違うのでしょうか。そして、テレビ広告の中では、こうした男女差はどのように現れているのか考察します。

申し込み・お問い合わせ



長崎県立大学シーボルト校総務企画課 : 095-813-5500

長与町役場企画振興部企画課 : 095-883-1111



長崎県立大学シーボルト校総務企画課
F A X : 095-813-5220



長崎県立大学シーボルト校総務企画課
メール : kikaku-g@sun.ac.jp

[主催]



長与町



＜研究成果の還元＞

平成 25 年度における地域志向教育研究の活動結果をとりまとめ、報告書を作成し自治体に配布した。

研究領域		代表者		研究課題
		所属	氏名	
地域課題の解決に資する研究	共同	看護栄養	田中 一成	対馬特産緑豆「マサラ」を用いた機能性食品開発の基礎研究
地域課題の解決に資する研究	個人	看護栄養	中尾 八重子	しまの地域特性と行政保健師の地域診断
その他事業を推進する上で学長が必要と認める研究	個人	経 済	山崎 祐一	地域における異文化共生の礎を築くための地域貢献と経験的英語教育アプローチに関する研究

＜特産品等のアピール＞

・学園祭への出店

日 時：平成 26 年 11 月 8 日（土）～11 月 9 日（日）

場 所：佐世保校 鵬祭

テーマ：「キャンパス～思い出ば描かんば～」

日 時：平成 26 年 11 月 15 日（土）～11 月 16 日（日）

場 所：シーボルト校 SUN FESTA

テーマ：「magic」

★出店内容

- ・佐世保市：チラシ配布やポスター掲示
- ・平戸市：平戸和牛串及び平戸豚バラ串焼きの販売等（両校）
- ・対馬市：「しまのコッコちゃん」の販売
- ・五島市：かんころ餅や五島つばき茶等の販売
- ・小値賀町：チラシ配布やポスター掲示
- ・新上五島町：五島うどんの販売（佐校）、椿油搾り体験と、特産品の販売（シ校）



・新上五島町フェア

日 時：平成 26 年 6 月 24 日

場 所：長崎県立大学シーボルト校

昨年度実施したキックオフシンポジウムにおいて、栄養健康学科の学生が、新上五島町の職員や食生活改善推進員から伝統食についての指導を受け、実際に調理等を行いレシピ集の作成等を行った活動について発表を行った。

今回の新上五島フェアには、新上五島町役場より小川副町長、吉田栄養士さん、及び新上五島町食生活改善推進員連絡協議会上五島支部の前田さんの3名に来学いただき、学生がつくった給食を召し上がっていただき意見交換を行った。

学生達が一生懸命調理した郷土料理に、新上五島町の3人の方々は、「おいしい」と何度も発言され、新上五島町の味が伝承されているという評価を受けた。

今日の献立

- ・ ごはん
- ・ 上五島切り干し大根の煮しめ
- ・ ミニ上五島うどん
- ・ 和風ハンバーグ
- ・ いもだんご



(4) 教育の効果

教育の効果に関する部会では、PBLに関するFD研修会を実施した。

1. 全学FD研修会

開催日：8月7・8日

テーマ：しま体験教育プログラム実施に向けてのPBL授業の研修

実施内容：・特別講演（株）ベネッセコーポレーション 平山恭子氏

・PBL授業の実践（ロールプレイング）

・しま体験教育プログラムの具体的内容説明と意見交換

参加教員：111名

2. 経済学部FD研修会

開催日：6月10日 17:30～

テーマ：「産学協同PBL講座」の実践報告

外部講師：株式会社ベネッセコーポレーション

教育事業本部 研究開発チームリーダー 平山 恭子氏

参加教員：30名

3. 国際情報学部FD研修会

開催日：6月20日 18:00～

テーマ：地域活性化とPBL授業について

外部講師：摂南大学教授 浅野 英一 先生

参加教員：23名

(5) eラーニングシステム等の構築

eラーニングシステム等の構築に関する部会では、しま体験教育プログラム試行のコンテンツ作成を行った。またその実施結果を用い、本格実施に向けた準備として、モバイルラーニング管理委託費により、モバイルラーニングシステムの機能拡充と本格実施のコンテンツ作成を行った。また、他大学等の先進事例調査も実施した。

<コンテンツ作成>・・・資料 1

しま体験教育プログラムの試行実施にあたって、eラーニング・タブレットを実験的に使用し、本格実施に向けて設計・必要機能の策定・環境整備等の検討を行った。

試行で使用するしまに関するコンテンツ、フィールドワークの計画書を作成・提出する機能の実装、フィールドワーク中の日報、チェックリストの提出機能を実装し、報告された内容をポートフォリオとして蓄積できるようにした。

<モバイルラーニング管理委託>・・・資料 2

試行の結果を基に、不足している機能の改善を目的として、eラーニングシステム管理委託費による構築等の一般競争入札を行った。

これは、試行で使用した一般的なeラーニングシステムにグループワークの支援機能、しまでのフィールドワークの日程・工程の管理機能を搭載し、全学で実施した場合にも、学生の計画や行動を管理できるようにしたものである。この機能強化により、教育的な意味での学習管理のみならず、大学としての実施費用面の管理、安全把握、自治体・宿泊施設・交通機関との連携管理にもシステムが活用できるようになり統合的なフィールドワークの管理を可能にしている。

<調査>

しまでの学習環境の調査、eラーニングの先進事例調査を行った。

・H26年4月、6月

吉崎市でのタブレット使用についての検証実施

(モバイルネット環境および、サテライトキャンパスの設備等の調査)

・H26年6月

五島市でのサテライトキャンパス視察

(モバイルネット環境および、サテライトキャンパスの設備等の調査)

- H26年9月
九州大学、岐阜大学において、モバイルラーニングの機能に関する調査
(タブレット等の先進事例を調査)
- H27年1月
熊本大学 教授システム学専攻・eラーニング推進機構
(eラーニングシステム研究に関する動向調査、資料収集)
- H27年2月
JMOOC事務局、つくば市民大学において地域との連携機能構築に向けた調査
(インターネット公開講座MOOCsの可能性についての調査、
市民大学においては地域と連携した学習環境のありかたについて調査)

全4回のしま体験教育プログラム試行の講義およびフィールドワークにおいて、manabaによって回収し指導する方法の試行を行った。

講義においては、毎回の「学生の講義記録」・「提出物（計画書など）」を回収し、フィールドワークにおいては「日報（実施記録）」・「実施後の調査（チェックリスト）」について回収した。

manabaによる提出画面の例1：第1回の「希望するしまの調査」の記録より

長崎県立大学 e-Learning System

2015-06-23 (Tue) 井ノ上 薫司 | 設定 | ログアウト

しまに学ぶ2014

コース設定 担当教員: COC担当教員 2014 前期 金曜 5限

マイページ コース

小テスト アンケート レポート プロジェクト 成績

メモ一覧 English

プレビュー

第1回ポートフォリオ しま希望調査

受付期間	2014-06-19 06:50~2014-06-24 19:00
ポートフォリオでの扱い	回答を学生のポートフォリオに追加

※アンケート集計シートに表示される問題番号を赤の太字で表示しています (例: 1.1)。

このアンケートは、しま体験教育プログラム第1回の宿題となるものです。指定された提出期限までに必ず提出してください。
記入する際には、授業中のグループワークで記入したワークシートを見ながら、記入すること。

希望するしま (グループワークの結果どうしたか最終的な案を書く)

1.1 (入力必須)

そのしまを希望する理由 (グループワークをやってみて思ったことを書く) (入力必須)

1.2

3文字

やってみたいテーマ (思いづつもの複数書いても良い) (入力必須)

1.3

3文字

テーマの理由 (しまにとっての意味、どんなことが発信できそうか から統合して記入する) (入力必須)

1.4

3文字

前へ 次へ

閉じる

manaba 2.04 Copyright © 2013 Asahi Net, Inc. All Rights Reserved. マニュアル Powered by manaba

manaba による提出画面の例 2：第 3 回・第 4 回のグループでの提出物

「フィールドワーク計画書」

最終計画・第3回・第4回 ワークシート 対馬 3 ☆ ■ ino@sun.ac.jp

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール アドオン ヘルプ 変 コメント 共有

fx | フィールドワーク最終計画書

	A	B	C	D	E	F	G
1	フィールドワーク最終計画書				8月5日の最終指示に沿い8月20日までに修正		
2				番号: B21140000		氏名:	
3							
4	グループ	対馬3(藤沢)	日程	9月13日~9月15日	しま	対馬	
5	チーム名	ちんぐ					
6	メンバー	(7)人 リーダー () サブリーダー () メンバー					
7	テーマ	もってこい対馬					
8	目標	<ul style="list-style-type: none"> 対馬に対する自分たちの意見と、市役所や地元の方の意見と、観光客の意見をそれぞれ比較 TwitterやFacebookを使い、自分たちが対馬のページをシェアしたり、逆に自分たちのページを市役所や観光協会にお願いして自分たちのTwitterやFacebookのURLを貼ってもらい、 					
9	達成方法	<ul style="list-style-type: none"> 各地への移動手段を調べておく(事前) インタビュー内容をまとめておく(事前) 自分たちの対馬に対する意見を、行く前と行った後のをまとめ、比較(事前、事後) 各地での聞き取り調査(現地) TwitterやFacebookでシェア(事後) 					
10	添付資料	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取り調査用紙(質問項目兼記録用紙) 市役所の方用、地元の方用、観光客用の3種類 自分たちの意見シート(事前用・事後用) 					
11	FW日程	午前(9~12時)	午後1(概ね12~15時)	午後2(概ね15~18時)			
		7:40 シーボルト校本部棟(来客駐車場)に集合	13:00 巖原港到着	15:00-15:05 徒歩で丸屋ホテルへ移動	※市役所から丸屋ホテルまで徒歩2分、110m		
		8:00-10:30 バスで博多港へ移動 ※シーボルト校8:00発-博多港10:30着の大学バスに乗車	13:00-13:30 徒歩で市役所へ移動 ※巖原港から市役所まで徒歩12分、750m	15:05-15:15 丸屋ホテルでチェックイン ※丸屋ホテルでのチェックインは14:00から可能			
		10:45-13:00 ジェットホイルで巖原港へ移動 ※博多港10:45発-巖原港13:00着のジェットホイルに乗船	13:30-15:00 市役所でインタビュー	15:15-15:25 徒歩で対馬バーガー-KYOへ移動 ※丸屋ホテルから対馬バーガー-KYOまで徒歩6分、350m			
				15:25-16:00 対馬バーガー			

+ ≡ 最終計画書 計画書 企画書

manaba による提出画面の例 3：フィールドワークでの提出物

「調査票などの別添資料」

The screenshot shows the manaba LMS interface for a course titled "しまに学ぶ2014". The user is logged in as "井ノ上 憲司" on "2015-06-23 (Tue)". The course is managed by "担当教員: COC担当教員 2014 前期 全曜 5限". The current project is "対馬3", and the submission stage is "最終計画書・提出 第3回企画書・第4回計画書提出".

The main content area shows a message from the instructor:

こんにちは。
対馬3グループです。
聞き取り調査用紙(市役所(観光協会)の方・観光客・地元の方向け)、及び自分たちの意見シート(事前・事後用)を添付します。よろしくお願ひします。

Below the message, five documents are listed as attachments:

- 添付資料1: 聞き取り調査用紙(市役所(観光協会)の方向け)
対馬3_聞き取り調査(市役所・観光協会).docx - 2014-07-25 12:03:44
- 添付資料2: 聞き取り調査用紙(観光客向け)
対馬3_聞き取り調査(観光客).docx - 2014-07-25 12:05:12
- 添付資料3: 聞き取り調査用紙(地元の方向け)
対馬3_聞き取り調査(地元の人).docx - 2014-07-25 12:06:03
- 添付資料4: 自分たちの意見シート(事前)
対馬3_自分たちの意見シート(事前).docx - 2014-07-25 12:07:50
- 添付資料5: 自分たちの意見シート(事後)
対馬3_自分たちの意見シート(事後).docx - 2014-07-25 12:09:10

On the right side, there are two lists:

- メンバーリスト** (Member List): A list of team members, including 対馬3.
- チームリスト** (Team List): A list of teams, including 対馬3.

2014 年度のしま体験教育プログラム試行の結果を受けて、本年度のモバイルラーニングシステム管理委託費により、2015 年度の e ラーニング環境整備のため「manabie」を製作した。

1. ログイン後の画面で提出物と提出状況がひと目で分かる。

manabie B1114001 長崎 太郎 ログアウト

実施月日 2015年7月12日～2015年7月17日 グループ名 対馬 1

メンバー (リーダー) 牧瀬玲奈、(副リーダー) 本村春樹、有田 茂樹、藤野 由美子、藤川 美和子、富岡 希、松本 守、小出 美佐子、奥田 まみ、及川 一、坂本華子、大和田透、荒田美佐、横尾敦、北岡大樹

講義科目 演習科目

講義日	講義	個人提出物				グループ提出物	
		自己確認	まとめ報告	課題	社会人基礎テスト	まとめ報告	リーダー報告
2015年4月23日	第1回	2015年4月24日 提出済	2015年4月24日 提出済	2015年4月24日 提出済	2015年4月24日 提出済		
2015年4月23日	第2回	2015年4月24日 提出済	2015年4月24日 提出済	2015年4月24日 提出済			
2015年4月23日	第3回	2015年4月24日 提出済	2015年4月24日 提出済	2015年4月24日 提出済			
2015年4月23日	第4回	2015年4月24日 提出済	2015年4月24日 再提出	2015年4月24日 提出済 ¹			
▶ 2015年4月23日	第5回	2015年4月24日 提出済		2015年4月24日 未提出		2015年4月24日 下書保存	2015年4月24日 提出済
2015年4月23日	第6回	2015年4月24日 未提出		2015年4月24日 未提出		2015年4月24日 未提出	
2015年4月23日	第7回	2015年4月24日 未提出		2015年4月24日 未提出		2015年4月24日 未提出	
2015年4月23日	第8回	2015年4月24日 未提出		2015年4月24日 未提出		2015年4月24日 未提出	
2015年4月23日	第9回	2015年4月24日 未提出		2015年4月24日 未提出		2015年4月24日 未提出	

manabie ログアウト

教員画面では、未提出人数など全体把握が容易に

講義科目 演習科目 クラス: 国際 グループ: 対馬 1

■ 全員提出済み ■ 未提出者有り ■ 未確認有り

講義日	講義	個人提出物				グループ提出物	
		自己確認	まとめ報告	課題	社会人基礎テスト	まとめ報告	リーダー報告
2015年4月23日	第1回	2015年4月24日 全員提出済み	2015年4月24日 全員提出済み	2015年4月24日 全員提出済み	2015年4月24日 全員提出済み		
2015年4月23日	第2回	2015年4月24日 全員提出済み	2015年4月24日 全員提出済み	2015年4月24日 全員提出済み			
2015年4月23日	第3回	2015年4月24日 全員提出済み	2015年4月24日 全員提出済み	2015年4月24日 全員提出済み			
2015年4月23日	第4回	2015年4月24日 全員提出済み	2015年4月24日 全員提出済み	2015年4月24日 全員提出済み			
▶ 2015年4月23日	第5回	2015年4月24日 あと3人		2015年4月24日 あと4人 ¹		2015年4月24日 全員提出済み	2015年4月24日 全員提出済み
2015年4月23日	第6回	2015年4月24日 あと10人		2015年4月24日 あと10人		2015年4月24日 あと10人	

グループが「すべて」の場合、一覧には複数グループが表示されるためグループ提出物のラベルは下記ようになる

2015年4月24日
あと2グループ

3. しまでの日程計画、フィールドワークを設計するための画面

行動計画がひと目でわかる画面を用意した。学生の入力の間違いなどによって、移動方法のミス、先方への連絡ミスなどを未然に防ぐためのシステム。

manabie
B1114001 長崎 太郎 ログアウト

実施月日	2015年7月12日～2015年7月17日	グループ名	対馬 1
メンバー	(リーダー) 牧瀬玲奈、(副リーダー) 本村春樹、有田 茂樹、藤野 由美子、藤川 美和子、富岡 希、松本 守、小出 美佐子、奥田 まみ、及川 一、坂本華子、大和田透、荒田美佐、横尾敦、北岡大樹		

TOP > 第9回 まとめ報告 > しまにおけるフィールドワークの方法・時間・場所・目的等編集

講義 第9回
講義実施日: 2015年4月21日 提出済み: 2015年4月22日 15時00分

まとめ報告 グループ

※① 第4日目の午前中はしまにおける簡易な発表のための準備、午後(夕刻)は発表及び意見交換が基本。
 ② 「アンケート・聞き取り・インタビュー等のフィールドワークそのものについては、実施の有無、調査の目的・項目・方法・規模等を早期に決定して下さい。文言等については第13回講義以降に検討しても構いません。
 ③ しまにおける「協力者、対応者、許諾」については、学生の要望を基に大学が「しま」に照会し、その結果を学生に連絡します。(照会の結果の連絡は、第13回講義までに行いますが、できない分は判明しだい随時連絡します。)
 ④ しまにおける移動の手段・方法・時刻については、第13回講義以降に検討します。

第1日目

AM	+	大学(集合場所)	↓	08:05-11:15	フェリー 長崎港-福江港	✎ ✕
					【立寄】福江港	✎ ✕
					【昼食】〇〇食堂	✎ ✕
					【FW】〇〇教会 聞き取り	✎ ✕
					【宿泊】〇〇旅館	✎ ✕

第2日目

AM	+	【FW】××観光協会 聞き取り	✎ ✕
		【昼食】〇〇物産協会	✎ ✕
		【FW】〇〇市役所 インタビュー	✎ ✕
		【宿泊】〇〇旅館	✎ ✕

フィールドワーク

名称	〇〇教会 地図から入力
住所	長崎県五島市〇〇町1-11
TEL	0000-00-0000
メモ	
目的	仲間意識調査
手段	インタビュー
対象	〇〇地区の住民
規模	10人程度
内容	近所付き合いの現状
協力者	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 <input type="text" value="〇〇地区長"/>
実施の許可者	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 <input type="text" value="〇〇地区長"/>
施設利用の許可者	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 <input type="text" value="施設長"/>
料金	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 <input type="text" value="一人500円"/>
メモ	

キャンセル
OK

Google マップ
の地図と連動

IV その他

「大学の約束」掲載記事

【LOCAL COMMUNITY】地域を活かす大学

▶多くのしまや地域と連携協定を締結
▶新上島町でシンポジウムを開催
▶活発なディスカッションで課題を議論

▶フェスティバルで地域とつながる
▶産学連携で地域課題を解決
▶地域貢献活動で社会貢献を推進



「しま」の過疎化・高齢化に向き合う
大学×地域のタッグ。長崎からはじまる

長崎県立大学
〒858-8500
長崎県佐世市佐世1-3-1 (佐世駅前)
TEL: 0958-47-2111 (内線) FAX: 0958-47-2112
経済学部・国際経済学部・経営学部 3学部7学科
定員: 2008年196名 2010年200名 2014年5月5日

日本が抱える過疎化・高齢化の加速は、しまの未来に大きな影響を及ぼす。しまの未来を担うのは、若く、自らを鍛えることにもつとめ、社会に貢献する人材の育成である。長崎県立大学は、この課題を解決するために、産学連携を推進し、地域貢献活動を通じて、社会に貢献する人材の育成に取り組んでいる。

学生のリアルな体験が、しまの未来を担う

長崎県立大学の「長崎のしま」学部というプログラムが、この課題を解決するために、産学連携を推進し、地域貢献活動を通じて、社会に貢献する人材の育成に取り組んでいる。

なぜかその問いに答えるには、まず、1つでも地域に還元できるものがあればいい。それが、プログラムの本質を担う。産学連携によるフィールドワークの試行は、この試み。経済学部は、上島町と連携し、地域課題を解決するために、産学連携を推進し、地域貢献活動を通じて、社会に貢献する人材の育成に取り組んでいる。

なぜかその問いに答えるには、まず、1つでも地域に還元できるものがあればいい。それが、プログラムの本質を担う。産学連携によるフィールドワークの試行は、この試み。経済学部は、上島町と連携し、地域課題を解決するために、産学連携を推進し、地域貢献活動を通じて、社会に貢献する人材の育成に取り組んでいる。

長崎県立大学
「しま」の未来に活かす
「しま」の未来に活かす
「しま」の未来に活かす

長崎県立大学の「長崎のしま」学部というプログラムが、この課題を解決するために、産学連携を推進し、地域貢献活動を通じて、社会に貢献する人材の育成に取り組んでいる。

なぜかその問いに答えるには、まず、1つでも地域に還元できるものがあればいい。それが、プログラムの本質を担う。産学連携によるフィールドワークの試行は、この試み。経済学部は、上島町と連携し、地域課題を解決するために、産学連携を推進し、地域貢献活動を通じて、社会に貢献する人材の育成に取り組んでいる。

日本農業新聞（平成26年9月19日）掲載記事

離島の農業
大学生学ぶ
JAごとう管内

「長崎・ごとう」長崎県立大学の2年生5人が、

五島市の農業を学ぶためJAごとう本店や管内の圃場（ほじょう）などを訪れた。県内の離島を訪れ、地域を学習し、実践のフィールドとする「しま」体験教育プログラムの一環として初めて行われた。

農業をテーマに現地調査を行ったのは同大学経済学部経済学系木村務教授の学生グループ。JA本店での管内概況説明の後、特産のタカナ、肉用牛、パブリカの生産者に話を聞いた。

パブリカの生産を行う備五島パブリカの園山吉弥社長が「夏場の目玉として部会を発足させた。島外での価格設定などを参考にしたい」と話した。学生からは「夏場の作物なので、台風対策はどうしていますか」などの質問があった。

パンフレット作成

●COCプロジェクト推進体制

COCプロジェクト推進本部

推進本部は、COCプロジェクトの推進を目的として、学長を本部長とする。推進本部は、COCプロジェクトの推進に関する事項を決定し、各部署に指示を出す。また、COCプロジェクトの推進に関する事項を報告し、評価を受ける。

COCプロジェクト連絡会議

推進本部は、COCプロジェクトの推進に関する事項を決定し、各部署に指示を出す。また、COCプロジェクトの推進に関する事項を報告し、評価を受ける。

COCプロジェクト評価委員会

推進本部は、COCプロジェクトの推進に関する事項を決定し、各部署に指示を出す。また、COCプロジェクトの推進に関する事項を報告し、評価を受ける。

●連携自治体について

地域と大学の協力を活用し、本学が「地知」の拠点として研究や地域貢献活動を行うため、平成25年度までに市内5市町と連携協定を締結しています。地域の抱える様々な課題に対して、地域大学が協働して解決していきます。

佐世保校 0958-8195
長崎県佐世保市山田町1-2-3
TEL 0956-47-5956 / FAX 0956-47-8047

シーボルト校 0951-2195
長崎県西彼杵郡高田町野辺1-1-1
TEL 0958-13-5550 / FAX 0958-13-5220

●地(知)の拠点

平成25年度採択 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」

長崎の「しまに学ぶ」

「つながる」と「ひともの」

●はじめに

長崎県立大学は、平成25年度に公表された文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」に申請し、採択された教育・研究・地域連携推進事業の拠点として採択されました。「しまに学ぶ」は、この「しまに学ぶ」の「しま」に「つながる」と「ひともの」の「つながる」と「ひともの」の「ひともの」を意味する「しまに学ぶ」を掲げ、地域の課題を解決し、地域に貢献していきます。

大学COC(Center of Community)事業

「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」とは、自治体と連携し、大学が地域に貢献するための事業です。大学は、自治体と連携し、地域の課題を解決し、地域に貢献していきます。

本学のテーマ

本学のCOC事業のテーマは「長崎のしまに学ぶ」です。これは、長崎の歴史・文化・産業・観光・環境・教育・研究・地域連携推進事業の推進を目的としています。

●長崎のしまに学ぶ 一 つながる とき・ひと・もの 一 (概要図)

大学では、地域の課題を解決し、地域に貢献していきます。

「しまを知る」

「しまに学ぶ」

「地域に還す」

「取組事例を県内に普及」

「地域では」

●本学独自のプログラム「しまなび」プログラム

県立の大学として地域に貢献するため、様々な取り組みを行っています。その中でも、「しまなび」プログラムは、地域の課題を解決し、地域に貢献するためのプログラムです。

科目名 全学教育科目「しまに学ぶ」

演習科目「しまのフィールドワーク」2単位(必修)

科目名 演習科目「しまのフィールドワーク」2単位(必修)

担当教員 専任教員全員(共通シラバス・指導マニュアル作成のもと実施)

講義科目 PBIによる「しまに学ぶ」の事前学習

演習科目 しまのフィールドワークの実施

まとめ・発表会の実施

専門科目目による深い学びへ繋ぐ

学習管理システム(manabi)※e-ラーニング・地域貢献とをキーワード

アンケート結果

アンケート対象者(基礎データ)

全学生数	2,279	(2～4年生)
有効回答数	1,473	
割合	64.6%	
全教員	123	(専任教員+学長)
有効回答数	72	
割合	58.5%	
全職員	51	(正規職員+局長)
有効回答数	51	
割合	100.0%	
全連携自治体	9	(長崎県、佐世保市、平戸市、対馬市、壱岐市、五島市)
有効回答数	9	長与町、新上五島町、小値賀町)
割合	100.0%	

アンケート結果の集計

教育活動の状況

1. 地域志向科目※を何科目設置していますか。現在開設している科目数と、平成26年度新規に開設した科目数をそれぞれお答えください。

現在開設している科目数	27 科目
うち、平成26年度新規に開設した科目数	8 科目

2. 地域志向科目にアクティブラーニングを導入している科目を何科目開設していますか。

アクティブラーニングの科目数	8 科目
当該科目の履修者数(実数)①	328 人
当該科目の履修者数の全学生に対する割合 (当該科目の履修者数①/全学生数)	21.7 %

自県内入学者及び自県内就職者の状況について

1. 本項目に加えて、別添1の入学・就職状況調査票(03【別添1】【〇〇大学】入学及び就職状況)についても記入願います。

2. 平成26年度末日における全就職者数のうち、COC事業の協力先企業(共同研究、インターンシップ、PBL等)に就職した数をお答えください。

COC事業の協力先企業就職者数	30 人
うち、共同研究連携	0 人
うち、インターンシップ	28 人
うち、PBL	0 人
うち、その他	2 人

連携自治体等からの支援の状況

1. 大学COC事業を進めるにあたり、連携する自治体や企業等とのコストシェアの状況についてお答えください。

①人的支援について

	教員			職員	その他
	教授	准教授	講師・助教・助手		
自治体				20人	
企業等					

②物的支援について

自治体	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のフィールドワークの拠点として自治体所有の施設を4カ所無償で貸与。 ・フィールドワークの成果報告会開催にあたり、自治体所有の施設3カ所を無償で貸与。
企業等	・

③財政的支援について

自治体名	金額
吉崎市(博物館等の学生の入場料免除)	29,600 円

企業等名	金額
	0 円

連携自治体や企業等からの相談状況

地域との連携強化に資する組織により(又は当該組織を通じて)連携自治体や企業から受けた相談件数をお答えください。

連携自治体からの相談件数	55 件
受託研究、共同研究に関する相談	10 件
学生のフィールドワークに関する相談	20 件
地域での講座の開催等に関する相談	20 件
地域創生等の委員就任に関する相談	5 件

企業等からの相談件数	10 件
うち、大企業	件
うち、中小企業	件
うち、小規模企業	10 件
うち、その他	件

全学生対象

1. あなたの出身(出生地)について、当てはまるもの1つを選んでください。

長崎県	686	人
長崎県以外	753	人
分からない	7	人
その他	2	人

2. 本学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

	人数	割合
知っている	854	58.0%
知らない	447	30.3%
わからない	158	10.7%

3. 本学が「地域のための大学」として実施する授業科目等を受講したことがありますか。

	人数	割合
はい	640	43.4%
はい(複数科目)	554	37.6%
いいえ	252	17.1%

(「3.」の質問で「はい」を選択した方はご回答ください。)

4. 上記科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力は深まりましたか。

	人数	割合
はい	792	66.3%
いいえ	105	8.8%
わからない	318	26.6%

(「3.」の質問で「はい」を選択した方はご回答ください。)

5. 上記科目の受講が、大学のある地域(長崎県)の企業や自治体等に就職しようとするきっかけになりましたか。

	人数	割合
そう思う	77	6.4%
ややそう思う	272	22.8%
どちらでもない	252	21.1%
あまりそう思わない	151	12.6%
そう思わない	99	8.3%

(「3.」の質問で「はい」を選択した方はご回答ください。)

6. その知識・理解・能力を今後どのように活かしていきたいと思えますか。(自由記述)

- ・ 長崎の平和運動に生かしたい
- ・ コミュニケーションの話題の1つとして活用していきたい
- ・ 長崎で起こった災害を通して看護の勉強をするので、長崎での就職後、そのような災害があった時に役立つと思う
- ・ 地域の歴史を受け継いでいきたい
- ・ 知識として得られたことで、ニュースや新聞の内容が入りやすくなったと思うので、今よりもさらに深く理解し、問題の解決等を自分なりに考えたい
- ・ 地域社会に対する知識を持ち、自らよい町づくりに参加していきたい
- ・ 就活をしていく中で、企業研究をする際、事業内容などに注目する
- ・ 就職後の地域的・経済的背景を考えるための素材にしていきたい
- ・ 問題解決能力を養うことができたので、企業や普段の生活時に役立てていきたい
- ・ 就職した際に身に着けた知識をもとに何をどのように考え、どう行動に移すかを考えていきたい
- ・ 地域の抱える問題等について知ることができたので、問題を解決するための考えを出せるようになりたい
- ・ 戦争を知らない世代に正しい知識や平和についての考えを教えていきたい
- ・ 地域ごとの良さを生かす行動が、大事であることに気付いたため、いい部分を大きくしていきたい
- ・ 地域間のコミュニケーションが必要であると思った
- ・ しまのフィールドワーク
- ・ 地域で活躍できるようになりたい
- ・ 身近なものをもう一度見直す力を身につけたので、学校生活にこの考える力を活かしていきたい
- ・ 長崎と世界各国や日本全国のかかわりについてより詳しく考えていきたい
- ・ 自分自身の能力向上のために活かしたい
- ・ 地域の人に学んだことを伝えて行きたい
- ・ 地域における特徴や長所をアピールできるような事業を考えたい
- ・ 文化史跡の観光活用や地域の人々へフィードバックによる地域への愛着心を生み出すことに活用したい
- ・ 地域の歴史や人々の考えをしっかり理解した上で、大学で学んだことを組み合わせながら、地域の向上に努めたい
- ・ 離島の現状を理解して、何が人々に必要なのか、何を私たちがしていけばいいのか考えていきたい
- ・ 長崎の地理を利用した産業システムをしたい
- ・ 地方再生を目標とし、地域の課題を解決したい
- ・ 卒論や就職活動、就職後に仕事などで活用したい
- ・ 地域貢献(活性化)
- ・ 長崎県出身者として、地域密着型の企業に注目し、地域発展を目的とした活動を行ってみたい
- ・ 地方創生が叫ばれる現今、企業本社の地方分散に注目が集まる中、各地方、各地域の人材こそが主体となって産学官の連携を果たす形態について学んでいきたい

7. 地域おこしのイベントやボランティアに参加したことがありますか。

	人数(全体)	割合
はい	351	23.8%
いいえ	1,112	75.5%

・「7.」の質問で「はい」を選択した方は具体的に記入してください。

がんばらんば大会のボランティア	122 人
地域のお祭り	36 人
よさこい佐世保祭り	31 人
平戸活性化活動	29 人
棚田田植え・稲刈り	25 人
清掃活動	13 人
長崎ランタンフェスティバル	9 人
しま体験教育プログラム	6 人
福岡県八女市星野村活性化活動	6 人
長与町ヘルシーウォーキング	5 人
ウォーキング	5 人
地域活性化	4 人
長与町シーサイドマルシェ	4 人
幼稚園児との交流	2 人
学習支援ボランティア	2 人
募金	2 人
サークル活動	2 人
クリスマス会	2 人
ちゃんぽんネットワークで離島の高校生に大学の説明	2 人
東日本大震災の被災地	2 人
長崎しおかぜ総文祭	2 人
新潟県関川村のお祭り	2 人
広島土砂災害	2 人
住宅建設活動	2 人
アンケート調査	2 人
路地裏マップ	2 人

・「7.」の質問で「いいえ」を選択した方は、上記に参加したいと思いますか。

	人数(全体)	割合
はい	808	54.9%
いいえ	275	18.7%

8. あなたは次の離島に行ったことがありますか。

	人数(全体)	割合
五島市	267	18.1%
新上五島町	210	14.3%
壱岐市	220	14.9%
対馬市	138	9.4%
小値賀町	61	4.1%
佐世保市宇久町	49	3.3%
平戸市的山大島	52	3.5%

全連携自治体対象

1. 本学の取組は、副申した事業計画どおりに進捗していると思いますか。
(理由は、「入力用(自治体理由)」シートに記載願います)

	自治体数	割合	理由
はい	9	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・本町での事業は地域志向教育研究(農産物の機能性解明等)及び女性のキャリア支援講座でいずれも当初の想定どおり進捗している。 ・当市と関わりのある事業については概ね計画通りの進捗である。 ・各課の状況を見て本市との連携にかかる部分は進捗している。 ・「しま」体験教育プログラムの本格実施には至っていないなど、多少遅れも見えるが、目的実現に向け着実に進んでいると思われる。 ・平成26年度実績報告書により、概ね事業計画どおりに進捗していると判断する。 ・しま体験教育プログラムを5市3町で実施し、教員・学生あわせて316名が参加するなど計画に沿った取り組みが行われている。 ・実際にフィールドワークや報告会を行っているため。
いいえ	0	0.0%	
わからない	0	0.0%	

2. 本学の取組について、円滑な連携のもとに実施されていると思いますか。
(理由は、「入力用(自治体理由)」シートに記載願います)

	自治体数	割合	理由
はい	9	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施に際し、大学と本町間で緊密な意思疎通を図ってきた。 ・連携会議の意見が反映されている。 ・担当の先生方、事務の方との円滑な連携がとれている。 ・大学側と市で担当窓口を通して協議がなされ連携されている。 ・細かい問い合わせ等に対してもスムーズに対応していただいている。 ・実績報告書により、地域や各自治体と連携のもと事業が実施されていると判断する。 ・県・関係市町を構成員とする連絡会議の開催により連携が図られている。 ・事業計画どおりに進捗している。
いいえ	0	0.0%	
わからない	0	0.0%	

3. 本学の取組は「地域のための大学」として満足するものですか。
 (理由は、「入力用(自治体理由)」シートに記載願います)

	自治体数	割合	理由
大いに満足	3	33.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献への熱意が感じられる。 ・今年度も「しま体験教育プログラム」での研究成果に期待する。 ・地域課題の解決や地域活性化に繋がる取り組みであり、また、地域住民と学生のつながりの創出、交流人口の拡大という点で大きな役割を果たしている。
満足	6	66.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の評価をしているが、課題点もある。 ・企画提案、マンパワーの提供など地域に不足しているものを補ってもらえている。 ・離島の活性化に寄与する内容であり、本市施策にも貢献し得る取組と考える。 ・本県のしまの実態に学生が直接触れる本事業については、学生としま双方にメリットのある取組である。 ・取組には満足している。実際に課題解決策の効果や予算化などの形にしていただければさらに満足できる。
不満	0	0.0%	
大いに不満	0	0.0%	

4. 地域のための取組として大学に期待する役割、果たすべき役割とはどのようなものと考えますか。

- ・大学教員、学生との地域住民の交流
- ・各種公開講座の開催等による住民の知的好奇心の充足、自己実現。
- ・まちづくり全般におけるシンクタンクとしての役割
- ・長崎県の特徴である「しま」の文化、歴史、産業について徹底的に掘り起こして、次世代へ継承する役割を願いたい。
- ・大学と関わる機会が少ない小中高生、高齢者への学習機会の提供。
- ・地域志向(グローバル)な学生の育成。
- ・地域公開講座の開催(CATVへの接続・連携)
- ・研究成果のしまへの還元
- ・若い大学生の視点で、本市在住の者が気付けないものに気づき提案してもらったり、若い人が起業・定住するうえで必要なものなど提案をいただきたい。
- ・大学の持つ知的・人的資源を地域課題解決に向け、積極的に活用していただくことを期待している。
- ・学生に離島の現状を学んでもらい、地域と連携を密にし意見・情報の交換を行い、目的を共有しながら、地域課題の解決を図っていききたい。
- ・学生の若い目線を見た地域の課題に対する解決策をどんどん出していただき、地域活性化のきっかけを作る役割を期待する。
- ・地域の課題に対して、自治体と連携しながら大学の資源や専門性を活かした政策提言や具体的な共同研究、事業支援等地域の活性化に貢献する役割を果たしてほしい。
- ・地域課題解決に向けた研究及びその成果を地域で実践していくこと。
- ・地域住民の生涯教育及び社会教育のための場と機会の確保。

5. 大学と連携して行いたいことはどのようなことがありますか。

- ・地域農産物の商品化、販路開拓等(6次産業化)
- ・人口減少対策
- ・地域学(対馬学)推進の支援等、地域にかかる知的財産の創出と共有
- ・地域課題の洗い出しと、それに対する対応策についての共同の取組み
- ・伝統文化や祭りなどの保存に関する共同の取組み
- ・当市が整備する活動滞在拠点への協力
- ・地域資源を活用した新商品、新サービスの開発等による産業振興の取組み
- ・市内道の駅(田平・生月)の再編
- ・コミュニティビジネスモデルの提案事業
- ・学生及び島外に住む人としての視点から、地域資源を活かした観光商品及び雇用環境の発掘をしていきたい。
- ・「しま」体験教育プログラムの実施にあたっては、本市が推奨する民泊などの体験型観光プログラムを活用し、学生を受け入れていきたい。
- ・インターンシップ事業
- ・人口減少をはじめ県内各地域の課題は深刻さを増しており、特に離島の状況は厳しい。地域の課題の解決に向け、県では市町や民間、地域の方々と連携しながら振興局単位でのプロジェクトに取り組んでいるところであり、その企画・実施にあたっては、課題内容も踏まえつつ大学が有するノウハウやネットワークの活用も検討していきたい。
- ・地域課題解決に向けた研究(共同、委託等形態及び予算の有無は問わない)
- ・行政の事業実施の際の業務の支援等(コーディネーターやファシリテーター、アンケートなどの配布・集計等業務運営等)

平成26年度 地（知）の拠点整備事業
「長崎のしまに学ぶ ― つながる とき・ひと・もの ―」
【事業経過報告書】

【お問い合わせ先】
長崎県立大学企画広報課
TEL : 0956-47-5856
FAX : 0956-47-8047
e-mail : kikaku@sun.ac.jp

【長崎県立大学】
佐世保校 〒858-8580 長崎県佐世保市川下町 123
シーボルト校 〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1

編集・発行 企画広報課企画広報グループ